



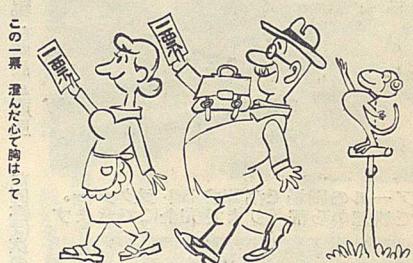
第52号

昭和38年9月1日 毎月1回発行
昭和38年1月23日第三種郵便物認可

☆9月のこよみ☆

1日	防災の日	補欠選挙
	震災記念日	航空記念日
10—16	身体障害者 職業更生週間	20—26 月動物愛護 週間
11日	青年学級	24日 秋分の日
13日	司法保護記念 日	24—30日 結核予防 週間
15日	老人の日	
18日	参議院議員	

9月18日 参議院議員補欠選挙



もれなく登録申請を

選挙人名簿の作成

9月15日現在で基本選挙人名簿

(口)本年12月20日現在で、満20才に達する者(昭和18年12月21日以前に生まれた者)

がつくられます。

この名簿は、毎年新しくつくられるもので、12月に行なわれる予定の町議会議員選挙、来年行なわれる予定の衆議院議員選挙についての登録申請書類、来年行なうたいせつなものですから、ひとりもれなく、忘れて申請してください。

近く班長さんを通じて申請書用紙が配布されますから、次のことがわざに注意して記入され、20まで班長さんのところへ届けてください。

①申請する人は

(イ)本年9月15日現在で当町の区域内に満3か月以上住んでいる者(6月16日以前から住んでいます)。

※禁治産者、禁と以上の刑に処せられてその執行を終るまでもし

くは執行をうけることがなくな

るまでの者、及び選挙犯罪者

資格はありません。

なお、この名簿作成と同時に、漁業調整委員会選挙人名簿の作成も行ないますが、これには、漁業協同組合のご協力を頼りにすることになっています。



浜部落・母と子の協力で
浜部落の中央を南北
に走る道は、幅が8メートル近くあり昔から
祭礼が栄えた名残りを
とどめています。

この道を南に向って行くと、家並みの開けた右側に、長さ50メートル、幅2メートルのきれいなお花畠があります。

ここは、畑の傍であるため、今までわら塚が並び、火災予防危険であったり、ちり檜場に利用して非衛生的だったり、思わしくない存在でしたが、昨年八月、農事研究クラブ浜東農会の生活改善研究会が、この計画を知った東

町消防団では、田服(上衣)を制定し、金員七二八名に支給しました。綿ギャバ生地、軽きんの質実なものですが統一された服装のもの、規律ある活動が期待されます。これで、町内合併前からの「はつひ」姿は消えたわけです。

道ばたにきれいな花
浜部落・母と子の協力で
浜部落の中央を南北
は、百草、ひまわり、カナ、けいとう、ほっせん花、松葉ボタなど、色とりどりに咲きそつと咲いています。



まどわら塚が並び、火災予防危険であったり、ちり檜場に利用して非衛生的だったり、思わしくない存在でした。

まどわら塚が並び、火災予防危険であったり、ちり檜場に利用して非衛生的だったり、思わしくない存在でした。

まどわら塚が並び、火災予防危険であったり、ちり檜場に利用して非衛生的だったり、思わしくない存在でした。

花畠ができあがりました。

道ばたへは、きれいな花をな

がめてなごやかな気持ちになり、彼岸やお盆には花を咲けて伝壇にそなえるなど、大きな成績をあげています。

花畠ができあがりました。

消防団服を制定

町消防団では、田服(上衣)を制定し、金員七二八名に支給しました。

綿ギャバ生地、軽きんの質実なものですが統一された服装のもの、規律ある活動が期待されます。これで、町内合併前からの「はつひ」姿は消えたわけです。

道ばたへは、きれいな花をながめてなごやかな気持ちになり、彼岸やお盆には花を咲けて伝壇にそなえるなど、大きな成績をあげています。

道ばたへは、きれいな花をながめてなごやかな気持ちになり、彼岸やお盆には花を咲けて伝壇にそなえるなど、大きな成績をあげています。

花畠ができあがりました。

道ばたへは、きれいな花をながめてなごやかな気持ちになり、彼岸やお盆には花を咲けて伝壇にそなえるなど、大きな成績をあげています。

民生委員の表彰

7月29日 水戸市茨城会館で、

民生委員15周年記念大会が開かれ

席上で、次の民生委員さんが功労

者として表彰を受けられました。

県知事表彰

鈴木篤然(西蓮寺) 23年勲続

根崎謙輔(ク) 16年勲続

県社会福祉協議会長表彰

小谷妙春(谷島) 16年勲続

この計画を知った東

ことも会(会長石橋光

子さん外21名) のよい

子たちも協力をすること

になり母子そろつて

作業をつづけ、また花

の好きなお年よりが積極

的な努力で、りっぱな

一せい検査

19月16・17の両日

公委員会の許可を受けて持つ

ておられる鉄砲・刀剣の一せい検

査を実施します。該当者は、許可

証と、鉄砲・刀剣をもつて、右の

期日に玉造部長派出所へおいで

日本農家の起居
と特権を与えられた
ことは私にとって本
当に素敵な経験となり、極めて有益なことでした。

私は日本の開拓農家の生活が
どんなものであるかを知りはじめ
ましたし、また、石田夫婦と徳子
さんのおかげで、日本語もたいて
ん進歩しました。

しかし、石田家をはじめ、御交
友いたいたたくさんの方々とお別れしなければならないときとな
って、私は悲しく、また、残念

ながら、社会の一員としての責
務遂行していただきたいといふ
願いも含まれておりました。

